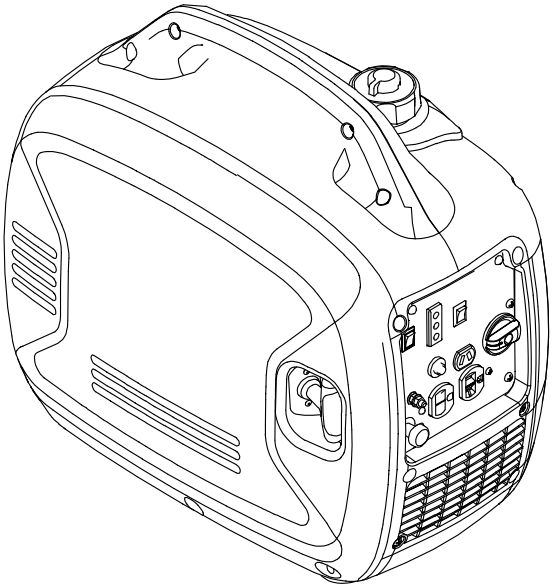
携帯インバーター発電機　Portable Inverter Generator

取扱説明書

iGen®

SQ1600D

目次	頁
はじめに	2
1.安全上の注意	3
2.仕様	7
3.用途	7
4.各部の名称	8
5.装備	11
6.運転方法	13
6-1.始動前点検	13
6-2.始動	17
6-3.停止	18
7.発電機の操作	19
8.点検・整備	21
9.長期保管	25
10.故障時の対応	26



DAISHIN ダイシン

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。
また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管して下さい。

15750278000

はじめに

このたびは、株式会社ダイシンのインバーター発電機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

●この取扱説明書は、本機を上手に安全に正しくご使用いただき、常にご満足いただける性能を発揮させる上で必要なことをまとめています。
本機の取扱を誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。

●本機の取扱は、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取扱ができる人が行ってください。

●本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。

●取扱説明書はいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

安全にお使いいただくために、この取扱説明書では、注意事項を下記のように区分しています。

⚠ **危険**: 取扱を誤ると、死亡または重傷を負う危険性がある場合

⚠ **注意**: 取扱を誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合、および物的傷害が発生する場合。

【注意】 : 本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

●いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

エンジンオイルが入っておりませんので、ご使用になる前に必ず注油してください。

1. 安全上の注意

⚠ 危険:排気ガス中毒

●エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。



⚠ 危険:感電

●運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
●出力コンセントや発電機開口部に、ピンや、針金などの金属物を入れないでください。
●点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意:感電

●本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
●運転中はスパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。



●マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物(燃料・ガス・塗料など)や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。

●本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所で運転してください.
●保管用カバーなどをかけるときは、本機が冷えてから行ってください。
●電力会社からの電気配線には接続しないでください。
●破損したコンセント、コンセントプラグは使用しないでください。





⚠ 注意:やけど

●運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
●エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

⚠ 注意:けが

●本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。
●エンジンを始動させるときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。
●回転部に棒・針金・ひもなどを入れないでください。
●回転部に巻き込まれる恐れがありますので、長い髪は束ね、スカーフやアクセサリー類のぶらつく物は身につけないでください。
●運転中、移動させないでください。
●運転中、本体の上に物を置かないでください。



●点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
●改造や、部品をはずしたままで運転しないでください。
●子供に使用させないでください。
●子供が離れた場所にいることを確認して使用してください。
●飲酒者に使用させないでください。

⚠ 注意:火災

●本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り、燃料コシ網の清掃など、燃料を扱うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
●燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料漏れがある場合には、絶対に使用せず、必ず修理してください。
●長い電線を使用すると、電線の抵抗が大きくなり、出力が低下します。このまま電気器具を接続して使用すると、電気機器の故障の要因になりますので注意ください。
電線の太さと電圧降下を示します。



断面積 mm^2	許容電流 A	電線30m延長時の電圧降下			
		5A	10A	15A	20A
1.25	12	4.5V	8.9V	×	×
2.0	17	2.8V	5.7V	8.6V	×
3.5	23	1.6V	3.1V	4.7V	6.2V

●日本の規格に合格した電線をご使用ください。
●燃料を発電機にいれたまま運搬しないでください。
振動や衝撃により、燃料がこぼれる恐れがあります。

ガソリン携行缶取扱注意（噴出注意）
●鉄製の携行缶を使用し、取扱説明書を熟読してください。
●周囲の安全を確認してください（危険物、火の気は取り除いてください）
●ふたを開ける前にエンジンを停止させ携行缶のエア抜きを実施してください。
●直射日光の当たる場所、高温の場所での保管をしないでください。

火災のおそれ、注意（ガソリン）についての注意事項

燃料のガソリンは、高い引火性と爆発性があり、死傷事故を引き起こす恐れがありますので取扱には十分注意してください。
また、燃料のガソリンは、自然劣化するため長期保管をするときは本書の指示に従ってください。

1..燃料（ガソリン）を給油するとき

1.必ずエンジンを停止し、喚起の良い場所で行ってください。
2.タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。
3.衣類や人体に溜まった静電気の火花が原因で火災が起きるおそれがありますので、静電気には十分注意してください。
4.燃料はこぼさないように注意してください。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。
ふき取った布切れなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
5.燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石鹸と水で洗い流してください。
衣類は取り替えてください。また、目や口などに入った場合は、直ちに医師の診察をうけてください。
6.ガソリンは、自然劣化するため、定期的に（1ヶ月に1度を目安）新しい燃料と交換してください。
7.燃料は種類と規定容量を守って使用してください。

2..ご使用になる前に、使用中

1.ご使用になる前に燃料漏れ、オイル漏れがないことを確認してください。
万一、漏れが発生した場合は、使用しないでください。お買上げの販売店または、弊社にご相談ください。
2.使用中は、建物や設備などから、1m以上離して使用ください。
3.発電機の周りに危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）や燃えやすいもの（わらくず、紙くず、木くずなど）を置かないでください。
4.使用中は、発電機を傾斜させたり、移動しないでください。
5.車載用の発電機ではありませんので車両に搭載して使用しないでください。

3.運搬するとき

1.燃料をタンクにいれたまま運搬しないでください。
振動や衝撃などにより燃料がこぼれるおそれがあります。
2.燃料タンクのキャップは確実に閉めてください。
3.燃料コックは閉にしてください。

4.保管するとき

1.保管するときは、必ずエンジンスイッチを停止位置にしてください。
2.発電機を車内や荷台に積載したまま、直射日光が当たる場所や高温になる場所に放置しないでください。
燃料が気化して引火しやすい状況となり危険です。
3.長期保管するときは、燃料タンク、キャブレター内の燃料をぬいてください。

4.燃料をぬくとき

1.上記『1.燃料（ガソリン）を給油するとき』 1.～5.の注意事項を守ってください。
2.燃料タンクの燃料を抜くときは、タンクの給油口から市販のガソリン用ポンプなどでぬいてください。
3.抜き取った燃料は、消防法に適合した鉄製の携行缶に入れて保管してください。

2. 仕様

型式		SQ1600D
発電機	発電方式	多極回転界磁型発電方式
	励磁方式	自己励磁式
	電圧調整方式	インバーター方式
	周波数(Hz)	50/60 Hz 切替式
	相	単相
	定格出力(kVA)	1．6
	定格電圧(V)	100
	定格電流(A)	16.0
	力率	1
	直流出力	12V ／ 8．3A
	過電流保護	電子式
エンジン	型式	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン
	排気量(cm^3)	79
	燃料の種類	無鉛ガソリン
	潤滑油容量(L)	0．4
	始動方式	リコイルスターター式
	オイルセンサー	有
燃料タンク規定容量(L)		4．2
外形寸法L×W×H(㎜)		500×288×463
乾燥重量(kg)		22．0

3. 用途

●電動工具の電源　●照明器具の電源　●家電機器の電源

⚠ 警告:障害

●医療機器には使用しないで下さい。

⚠ 注意:物的損害

●コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器・充電機器の電源としての使用は、発電機のエンジンノイズの影響を受けない距離を確保してください。

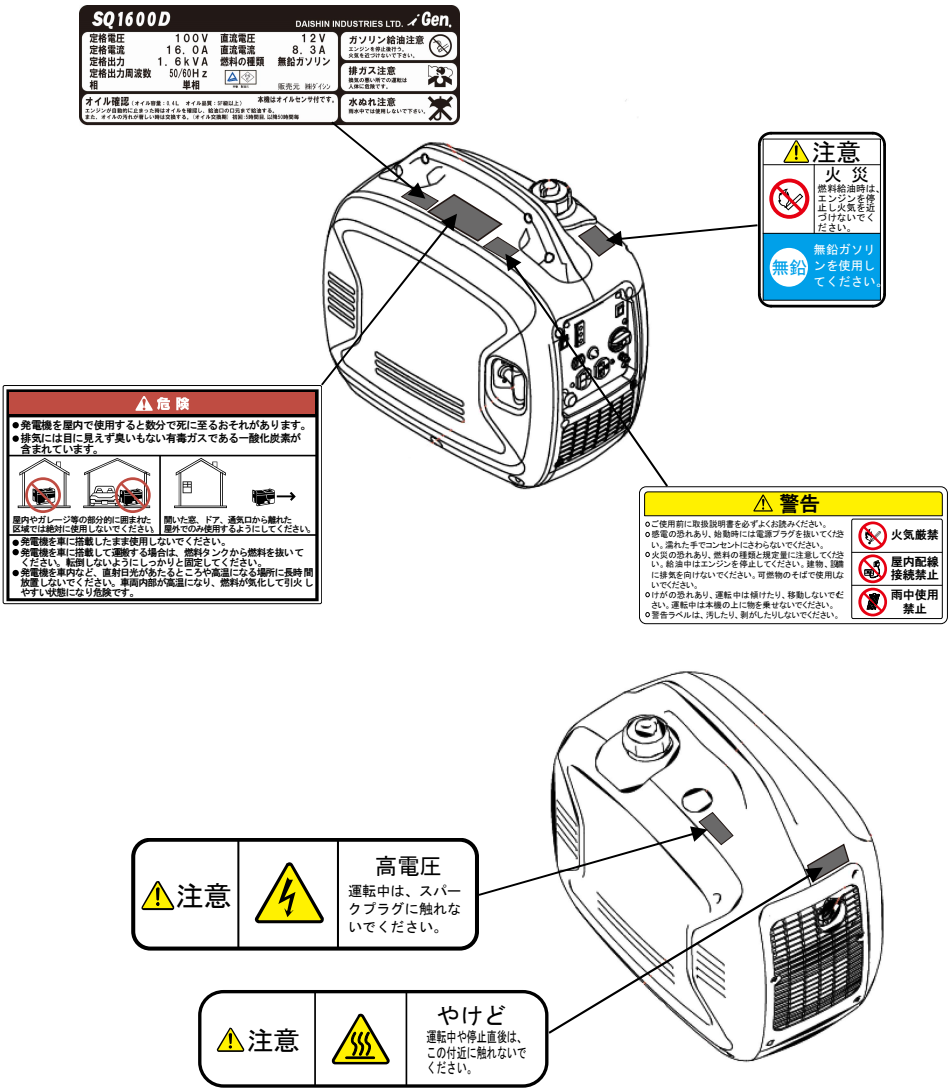
●電動工具、汎用モーター等起動電流の多い製品、または機器の種類によっては使用出来ない場合があります。

●使用する機器によっては発電機とのマッチング上、不具合が発生する場合がありま

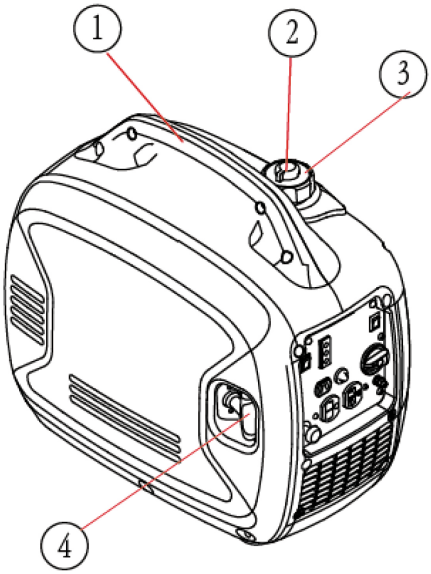
す。ご不明の場合は、お求めの販売店か弊社にご相談ください。

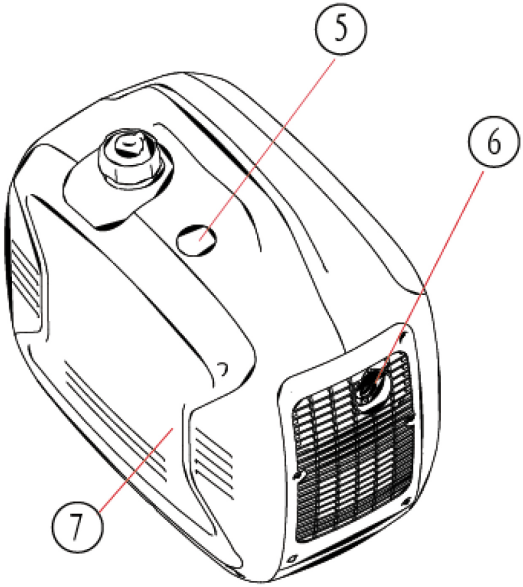
4. 各部の名称

当社発電機には下記に示す場所に、特に重要な注意事項に対し注意ラベルが貼付されています。仕様に関しては、十分に理解のうえ守ってください。

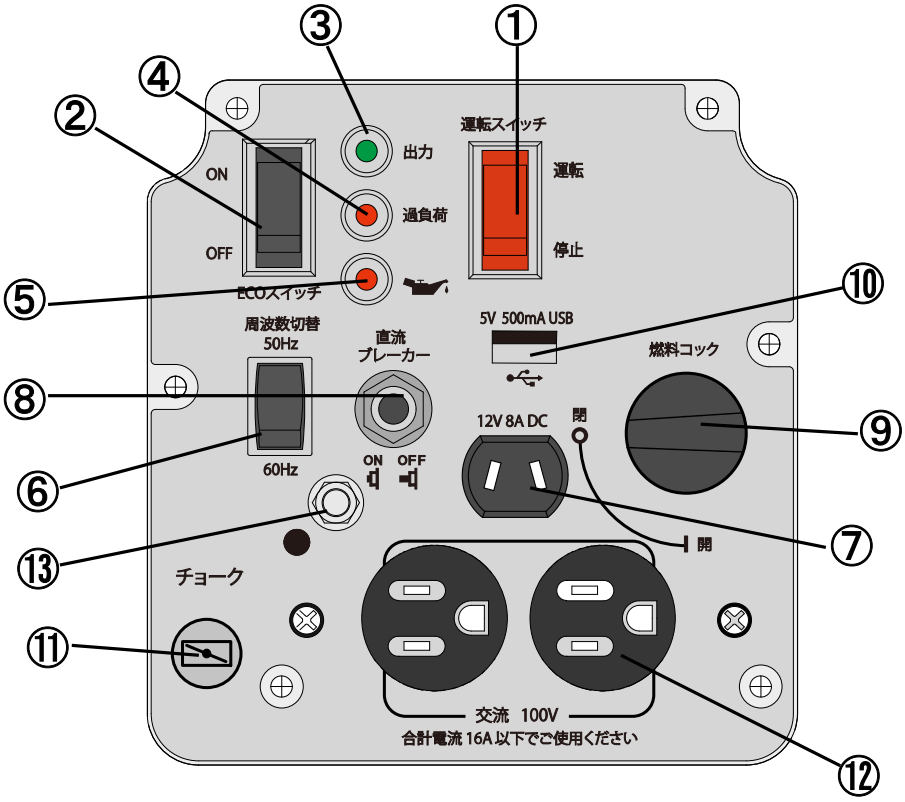


1.ハンドル
2.燃料タンクキャップ通気レバー
3.燃料タンクキャップ
4.リコイルノブ
5.燃料ゲージ
6.マフラー
7.オイルキャップ





コントロールパネル



1.運転スイッチ
2.エコスイッチ
3.運転表示灯(出力)
4.過負荷警告灯
5.オイル警告灯
6.周波数切替スイッチ
7.直流コンセント
8.ブレーカー(直流用)
9.燃料コック
10.USB ポート(5V　500mA)
11.チョーク
12.交流コンセント
13.アース

5. 装備

(1)オイルセンサー

⚠ 注意:やけど

●エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。
オイルセンサーが作動するとオイルセンサーランプが点灯します。
エンジンが自動停止したときは、『エンジンオイルの点検(P13)』の項を参照してエンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベル(FULL)まで給油してください。

【注意】●オイルセンサーは、オイルの劣化を検知することはできません。エンジンオイルは、『エンジンオイルの交換(P22)』の項を参照して定期的に交換してください。

【注意】●エンジンを始動するとオイルがエンジン各部に供給され、オイルパンの油面が下がります。オイル量が下限レベル(ADD)付近の場合、始動後数十秒～数分でエンジンが停止することがあります。始動前にはエンジンオイル量を点検(P13)下さい。

【注意】●エンジンオイルは、汎用エンジンの特性上減少いたします。

(2)過負荷警告灯

⚠ 注意:けが

●過負荷警告灯が点灯したとき、発電機を停止してください。
●発電機を停止する前に、接続している機器を取り外してください。

【注意】●交流電源は『使用できる機器の容量(P19)』の項を参照し、電流を取りすぎないよう注意してください。

（3）アース端子

本機をアース（接地）する端子です。

使用機器をアースしたときは、本機も必ずアースしてください。

（4）エコスイッチ

エコスイッチを入れると発電機が未使用時もしくは低出力時の回転数が下がり燃料消費量の少ないエコモードに切り替わります。一定の出力を必要とする際には自動的にエンジン回転数を上げます。

エコスイッチをオフにしたらエンジンは常に高回転状態を維持します

【注意】●使用機器の起動電力が大きい場合又は発電機に対し出力の大きな機器を使用される場合、電圧の変動を抑えるためエコスイッチはオフにして使用下さい

●直流電源を使用される場合はエコスイッチをオフにしてください

（5）周波数切替スイッチ

ご使用となる地域、使用機器によって周波数が違う場合があります。ご使用となる周波数に従い周波数切替を行って下さい



【注意】●周波数切替を行う際にはエンジンを停止されるか、使用機器の電源を切ってから切替を行って下さい。

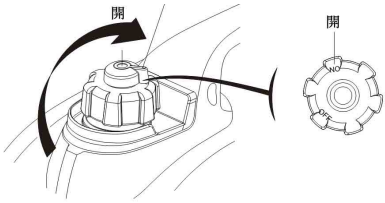
●運転中は切替を行わないで下さい。故障の原因となります。

（6）タンクキャップ通気レバー

保管、運搬時の燃料タンクの密閉を保ちます

保管、運搬時にはレバーを OFF に運転時には ON にして下さい。

タンクキャップ通気レバー



【注意】

●運転時に OFF の状態だとエンジンがガス欠状態になり運転不良になることがあります。

6. 運転方法

6－1. 始動前点検

⚠ 注意：火災・やけど・けが

●点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気に近づけないで下さい。
また、エンジンが冷えてから行ってください。

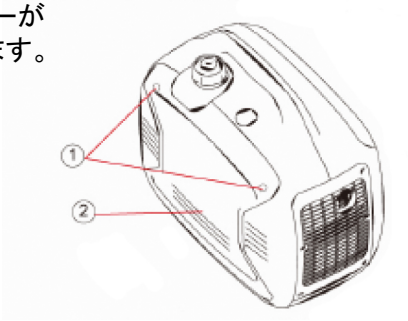
(1)エンジンオイルの点検

オイル量の点検は、本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態で(ねじ込まないで)確認してください。
オイル量の点検にはカバー取り付けボルトを外し、ｴｱｸﾘｰﾅｰｶﾊﾞｰを外してオイル量を点検してください。
始動前には、オイルを上限レベル(FULL)まで給油しておいてください。

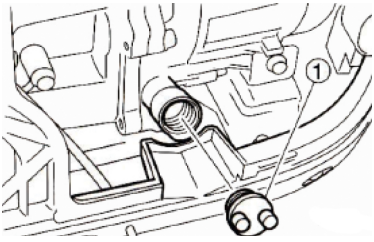
オイル容量　：約0．4ℓ(規定値)

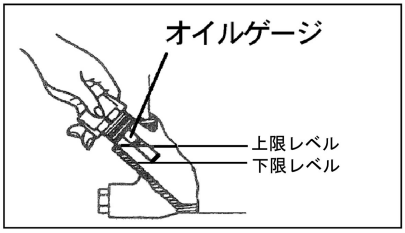
【注意】
●本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することは出来ません。
●オイル量が下限レベル(ADD)付近で使用すると、本機の傾きによってはオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。

1. カバー取付ボルトを外します①
カバーを外します②



2. オイルキャップを外します。



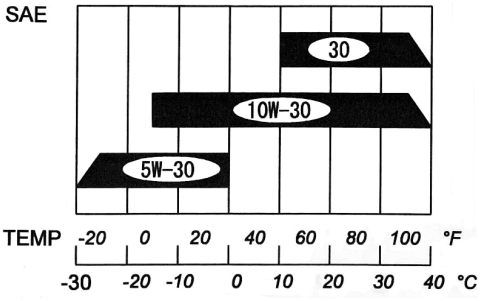


エンジンオイルの選定

●オイルの品質はSF 級以上のものをご使用ください。

●オイルは、1年中気温に関係なく使用できるSAE10W-30 または、SAE10W-40 を推奨します。
（ただし、気温が高い時に使用する場合は、オイル消費が増す傾向がありますので、日常の点検にご注意下さい。）

オイル粘土の選定基準



(2)燃料の点検

⚠ 注意:火災

●燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

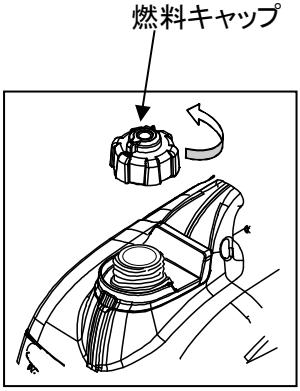
⚠ 危険:感電

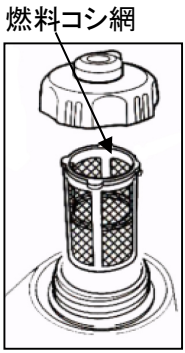
●身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
●静電気の放電による火花によ気化した燃料(ガソリン)に引火し、やけどを負う恐れがあります。本機や給油機などの金属部分に手を触れると静電気を放電することがあります。

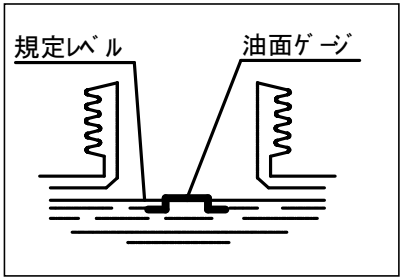
【注意】

●自動車用無鉛ガソリン(レギュラーまたはハイオク)を使用してください。
●30 日以上使用しなかった燃料は、新しい燃料に入れ換えてください。
●燃料は無鉛ガソリンを使用してください。
●給油時は運転スイッチを切り、給油口に装着してある燃料コシ網を必ず使用してください。
燃料コシ網は、汚れや損傷がないか定期的に点検してください。
●燃料は規定レベル以上給油しないでください。
●燃料の中に水やゴミなどが入っていないことを確認してから、給油して下さい。キャブレターの詰まりやエンジンの不調、あるいは燃料オーバーフローの原因となる恐れがあります。

1. 燃料が規定レベル内に十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。
給油口の規定レベル位置までガソリンを補給します。







【注意】

●発電機のまわりの燃えやすいものや、危険物は取り除いてください。

●建物その他の設備から 1m以上離してください。

●排気口は風通しの良い場所に向けてください。

●発電機は地盤が硬く平坦な場所に設置してください。

●発電機をダンボール等で囲わないで下さい。

●発電機を傾けて運搬しないで下さい。燃料漏れによる火災の要因になる恐れがあります。

(3)燃料・オイルもれの点検

⚠ 注意:火災

●燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれと、エンジンからのオイルもれがないか点検してください。燃料もれの点検は運転スイッチを”運転”にして行い、点検後は必ず運転スイッチを”停止″にしてください。

6－2. 始動

⚠ 危険:排気ガス中毒

●エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

⚠ 注意:排気ガス中毒

●排気を通行人や民家などに向けないでください。

⚠ 注意:火災

●マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のあるもの（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は、本機に近づけないでください。

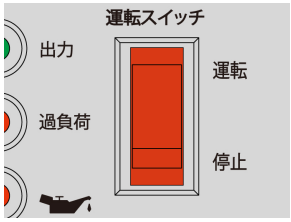
●本機は壁などの障害物から1m以上離し、水平な場所に設置してください。

⚠ 注意:けが

●本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置してください。

●始動前に、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

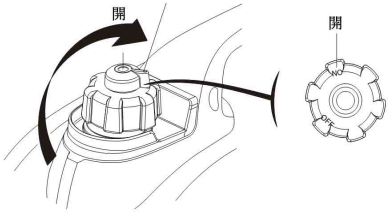
1. 運転スイッチを”運転”にします。



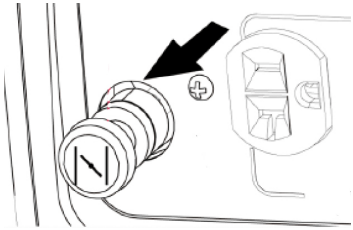
2. タンクキャップ通気ﾚﾊﾞｰを ON にします。

タンクキャップ通気レバー

【注意】●運転時に OFF の状態だと
エンジンがガス欠状態になり
運転不良になることがあります。



3. チョークレバーを手前に引きます。



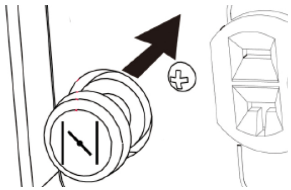
【注意】
●エンジンの暖機状態や外気温度に合わせて、チョーク操作を加減してください。

4. リコイルノブを重たくなるところ（圧縮点）までゆっくりと引き、一度元に戻して一気に引きます。



【注意】
●リコイルノブは、いっぱいに引ききらないでください。また引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。
急に戻すとけがの要因となる恐れがあります。

5. エンジン始動後、チョークレバーを元の位置に戻します。



【注意】●始動後、すぐにチョークレバーを『運転』にするとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて徐々に操作し、最後には必ず 『運転』側いっぱいにしてください。
6. 約5分間、暖機運転をします。

6－3. 停止

1. 使用機器のスイッチを切ります。
2. 約3分間冷機運転をします。
3. 運転スイッチを『停止』にします。

【注意】●運転スイッチを『停止』にしてもエンジンが止まらないときは、燃料コックを『閉』にし、燃料がなくなるまで運転してください。数分後に停止します。
その場合は、本機をそのまま使用せずに、お求めの販売店に修理を申し付けください。

7. 発電機の操作

⚠ 危険:感電

●本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。

⚠ 注意:けが

●使用機器のスイッチが『OFF』になっているのを確認してから、出力コンセントに電源プラグを差し込んでください。

⚠ 注意:物的傷害

●コンピューター・マイコン搭載機器・精密機器・充電機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

【注意】●2個のコンセント合計を定格電流以内で使用してください。

(1)操作　交流電源

エンジン始動後、ランプが緑点灯の状態で、コンセントから100V交流電源が取り出せます。

(2)使用できる機器の容量(目安)

電動工具や家電機器は、その種類・性能によって使用できる容量が異なりますので、次の表(目安)を参照してください。

使用機器	容量の目安(W:ワット)
白熱電球、電熱器など	1600
蛍光灯、など	1200
電動工具	1200
コンプレッサー	480

【注意】●モーターを使用した機器は、機器の定格より大きい電力を必要とすることがありますので、お求めの販売店か弊社にご相談ください。

(3)直流電源(カーバッテリー充電専用)

エンジン始動後、DC出力コンセントからバッテリー充電専用の12V直流電源が取り出せます。

最大出力は、直流12V－8．3A(100W)です。バッテリーへの接続は、付属のバッテリーチャージケーブルを使用してください。

【注意】●直流電源と交流電源を同時に使用する場合、交流出力は 1000VA までにしてください。
●直流電源を使用される場合はエコスイッチは OFF にして下さい。
●直流電源を繋いだまま車のエンジンを始動しないで下さい。
故障の原因となります。

(4)USB ポートを使用しての充電

接続機器への給電専用になります。
最大出力は、定格 5V－500mA です。

⚠ 危険:感電

⚠ 注意:火災

●本機や体がぬれているときは、充電を行わないでください。
感電の原因になります。
●USB ポートにほこりなどがたまっていないか、使用前に確認してください。
ほこりがたまっていると発火や感電の原因になります。
●USB ケーブルは、根元まで確実に差し込んでください。
差し込みが不完全ですと、発火や感電の原因になります。
●USB ケーブルで充電を行わないときは、USB ケーブルを抜いてください。
●USB 機器、USB ケーブルによっては、充電できない場合もあります。

本製品には、USB ケーブルは付属されておりません。
市販の USB 端子接続用ケーブルを使用してください。
本製品を使用したことによる他の機器の故障や不具合に
ついては、責任を負いかねますので御了承ください。

(5)周囲条件

本機は下記の使用条件で使用してください。
これらの条件が満たせない場合は、故障や出力不足・耐久性の低下などの恐れがあります。

■周囲温度: －5℃ ～ 40℃
■相対湿度: 80%以下
■標高 : 1000m以下

8. 点検・整備

⚠ 危険:感電

●必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意:けが

●必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意:火災・やけど

●絶対に火気を近づけないでください。

●エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次の表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

項目		始動時間前	25時間ごと	50時間ごと	100時間ごと	500時間ごと
1	各部の清掃・締付点検	○				
2	エンジンオイルの点検・給油	○				
3	エンジンオイルの交換	第1回目（5時間目）		第2回以降 ○		
4	燃料・オイル漏れの点検	○				
5	エアークリーナの清掃		○			
6	スパークプラグの清掃				○	
7	スパークプラグの調整				○	
8	吸排気弁の点検・すり合わせ					★
9	燃料室内の清掃				★	
10	オーバーホール					★

【注意】●燃料パイプや防振ゴムは1年ごとに交換してください。

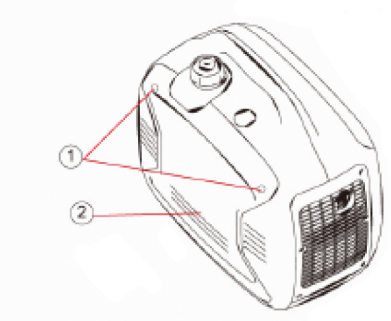
●交換部品は、必ず純正品を使用してください。

●項目★印は、お買い求めの販売店、弊社に御連絡ください。

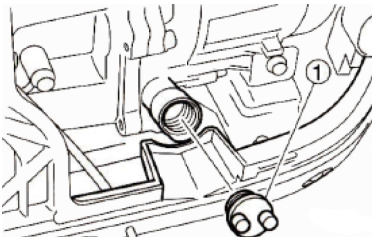
(1)エンジンオイルの交換

初回	5時間目
2回目以降	50時間ごと

1. ｶﾊﾞｰ取付ﾎﾞﾙﾄ①を緩め、ｶﾊﾞｰ②を外します。



2. オイルゲージをはずします。



3. 機体を傾けてオイルを抜きます。
   (エンジン停止後の暖かい時に早くきれいに
   抜くことができます。)

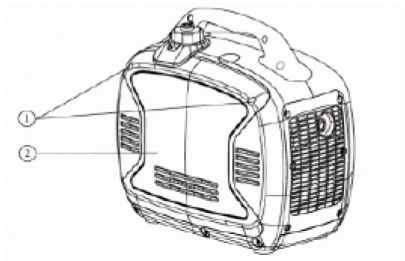


4. ドレンプラグを締め付けます。
5. エンジンオイルを上限レベルまで入れます。
   (約0．4L 入ります)
6. オイルゲージを締め付けます。
7. ｶﾊﾞｰを取り付けます。

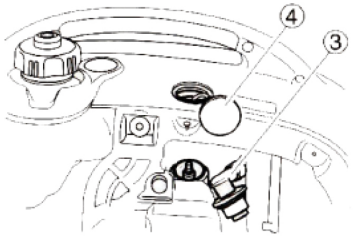
(2)スパークプラグの清掃と調整

清掃	100時間ごと
調整	100時間ごと

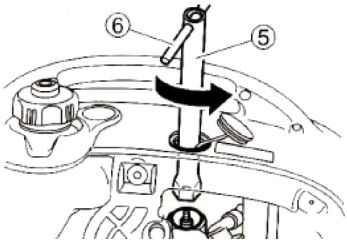
1. ｶﾊﾞｰ取付ﾎﾞﾙﾄ①を緩め、ｶﾊﾞｰ②を外します。



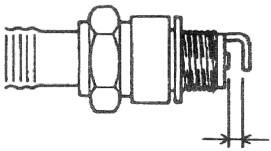
2. スパークプラグキャップ③を外し、キャップ④を外します。



3. プラグレンチ⑤とバー⑥を使用し、左回りに緩めます。



4. スパークプラグが汚れているときは、
   プラグクリーナーかワイヤーブラシで
   汚れを落とします。
5. 電極すきまを0．76㎜に調整します。



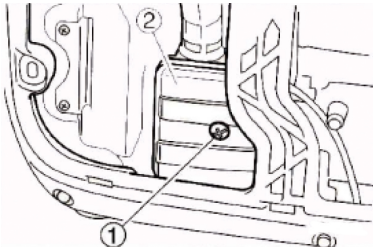
【注意】●プラグは『NGK　BPR6HS』を使用してください。

(3)エアークリーナの清掃

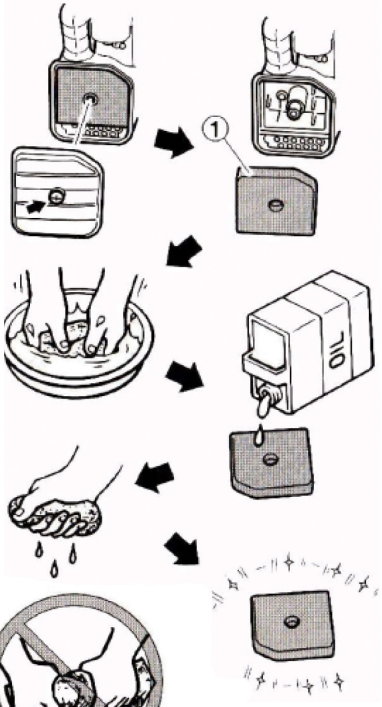
清掃	25時間ごと

【注意】●汚れがひどくなると、出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用したときは早めに清掃してください。また、必要な場合は交換をしてください。

1. ｶﾊﾞｰ取付ﾎﾞﾙﾄを緩め、ｶﾊﾞｰを外します。
2. ﾎﾞﾙﾄ①を緩め、ｴｱｸﾘｰﾅｰｶﾊﾞｰ②を外します。



2. エレメント①を取り外します。
3. 石鹸水などを使用して、
   エレメントを清掃します。
4. 軽くしぼり、オイルを染み込ませます。
5. エレメントを軽くしぼり、
   2. 1. の順に取り付けます。



【注意】
●絞る際には決してｴﾚﾒﾝﾄを捩じらないでさい。
ｴﾚﾒﾝﾄが破損します。

9. 長期保管

⚠ 危険:感電

●整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意:けが

●整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

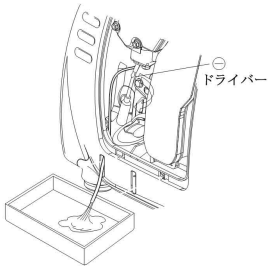
⚠ 注意:火災、やけど

●火気に近づけないでください。

●エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を 30 日以上使用しないときは、次の手順に従って整備を行ってください。

1. 燃料抜き



①燃料タンク内の燃料を、給油口より抜きます。
②ｴｱｸﾘｰﾅｰｶﾊﾞｰを外しキャブレター下部の燃料ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄをゆるめガソリンを出します
③運転スイッチを『運転』にします。
④ﾘｺｲﾙを 3～4 回引き、ﾄﾞﾚﾝﾎｰｽからガソリンが出なくなることを確認します
⑤ﾄﾞﾚﾝﾎﾞﾙﾄを締めます。

2. エンジンオイル交換

①運転スイッチを『停止』にします。
②エンジンオイルを交換します。(P22参照)

3. エンジンメンテナンス

①スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約15ml注入します。
②リコイルノブをゆっくり数回引きます。
③スパークプラグを取り付けます。
④リコイルノブを重たくなるところまでゆっくり引き、元に戻します。

4. 各部清掃

①エアークリーナを清掃します。
②各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

10. 故障時の対応

⚠ 危険:感電

●本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
●必ずエンジンを停止して行ってください。

⚠ 注意:けが

●必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意:火災・やけど

●絶対に火気を近づけないでください。
●エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。
点検しても正常にならないときは、お求めの販売店に修理を申し付けてください。

症状	推定原因	処置
エンジンが始動しない	1.運転スイッチ『停止』 2.燃料の不足 3.燃料に水やゴミが混入 4.オイルセンサー作動 5.スパークプラグのキャップのゆるみ 6.スパークプラグの汚れ	1.運転スイッチを『運転』 2.燃料を給油する 3.燃料タンクの水抜きと清掃 4.オイルを給油する 5.キャップ押し込む 6.スパークプラグの清掃
エンジンがすぐ停止する	1.オイルセンサー作動	1.オイルを給油する
使用機器が作動しない	1.過負荷ランプ 『赤』点灯 2.使用機器の電流が定格を越えている	1.エンジンを停止後、再始動させる。 2.『使用できる機器の容量』を参考にする

メモ

保　証　書

機種			保証期間	1年間	
お客様	お名前	様	お電話	（　　）	
	ご住所	〒		ご職業	
				年齢	歳
販売店	お買い上げ日	平成　　年　　月　　日		空欄をご記入下さい。 記入のない場合には 無効となりますから 必ずご確認下さい。	
	住　　所 〒 店名 電話　　（　　）				

保証期間内に取扱説明書の注意書きにしたがった正常なご使用状態で故障した場合は、本記載内容にもとづき無料修理いたします。お買い上げ日から保証期間内に故障した場合は、商品と本書、レシートをお持ちいただき修理をご依頼ください。（本書、レシートをご持参頂けない場合は、弊社工場出荷日を基準とさせて頂きます。）
尚、以下の状態の場合については保証対象外と成ります、有償対応申し上げますので予めご了承ください。
①保証書、レシートが送付されていない時　②購買店の押印のないもの　③購買日の確認が取れないもの

1. 保証期間内でも次のような場合は有料修理となります。
   ①取扱説明書に指定する定期点検整備を実施しなかったとき。
   ②保守、整備の不備または間違い。　③弊社が認めていない改造。
   ④純正部品および指定する油脂以外の使用。　⑤取扱説明書の指示に反する使用。
   ⑥弊社が示す仕様の限度をこえる使用（出力等）。　⑦使用者の不注意による故障。
   ⑧時の経過による変化で発生した不具合（塗装面、メッキ面などの自然退色など）。
   ⑨一般に品質、機械上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）。
   ⑩地震、台風、水害などの天災および事故、火災。
   ⑪煤煙、薬品、煙害等の外部要因に起因する不具合。
2. つぎに示すものの費用は負担いたしません。
   ①弊社が指定する消耗品（点火プラグ、エアークリーナ、オイルフィルタ、フューエルフィルタ、ランプ類、パッキン、ガスケット類等およびこれらに関する消耗品）および油脂類（エンジンオイル、グリス等）。
   ②弊社が指定する定期点検整備およびその他の点検、調整、清掃。
   ③弊社が指定するサービス工場以外での修理。
   ④本機を使用できなかった事による不便さおよび損失など（休業損害、商業損害など）。
   ⑤この保証書に示す条件以外の費用保証など。
   ⑥使用機器が壊れた場合、その機器の修理代および購入費用、代替機負担費用など。
3. 本書は再発行しませんので大切に保存してください。
4. この商品は持ち込み修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
5. 本書は日本国内についてのみ有効です。

製造・販売元　株式会社ダイシン　　TEL：0584-36-0501　0120-704-857
〒503-1382 岐阜県養老郡養老町船附 1520 番地 1